

## DATA

● 所在地：〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3番地 富士ソフトビル19階  
 ● 交通：JR秋葉原駅より徒歩5分  
 ● TEL：0120-970-021 / 03-5860-5544  
 ● FAX：03-5297-1782  
 ● URL：http://bbt.ac  
 ● 入学時期：4月、10月  
 ● 学部学科：経営学部グローバル経営学科 / 同学部ITソリューション学科  
 ● 学生数（2期生まで）：男子428人、女子90人  
 ● うち海外滞在学生数（入学時のべ）：16人  
 ● 教職員数：教授25人、准教授9人、講師44人、助教1人  
 ● 出願資格：  
 ● 高校卒業または卒業見込みの者  
 ● 海外において学校教育における12年の課程を修了あるいは修了見込みの者  
 ● 居住地に制限はなし  
 ● 海外在住中でも帰国せず入学可能

● 欧米でいったん社会に出てから学ばず人の割合が多いように、BBTUでもその割合は通常の日本の大学より高い。野尻さんが学ぶ学科では、同期や先輩に

「正直最初の一カ月は孤独感がありました。高校時代の友達も高でキャンパスライフを楽しんでいる……。なにに私はひとりパンコンとにらめっこ……。でもそのうちに、[AirCampus@]で知り合った仲間から気遣いのメールももらった。アドバイスされたり……。自分がかかっていることで世界が広がる実感がかけてきました。大学には、企業で勤めつつ学んでいるだけの若者同士だけでは出てこ

ない、経験に基づいた意見は自分の考えを深める意味でもとても刺激になります。地域的に近い人たちと実際に会って勉強するオフ会にも参加しました。海外で受講する学友のところに遊びに行っ

(取材・文＝権井淳子)

2年生の佐々木さん(右)と、1年生の野尻さん(左)。大学のロゴマークを挟んで



て出席の足跡を残し単位を取るだけでは終わらせません。むしろ、講義をきっかけとしてその周辺に学びの場、実践の場が自発的に生まれて広がっています」と

伊藤副学長は話してくれた。自らのワークプランを  
 本部には経営学の図書がたくさんそろえた自習室が用意されている。そこで勉強していた学生ふたりに話を聞いた。  
 経営学部グローバル学科一年生の野尻忠寿さんは高校卒業後、ほかの大学の建築学科で学んでいたが、BBTUに入学し直した。  
 「最初の大学で学んでいた二年生の終わりが、建築業界にこれから自分のやりたい分野で需要があるのだろうか、その疑問を感じはじめたんです。経営学や投資の分野に興味があるので、起業したいという思いが強くなり、SPOFという基金などで若者の起業をあと押ししてくる、この大学に入学し直しました」

企業勤務経験者、また公認会計士や弁護士資格を持つ人など、さまざまなキャリアを積み年齢も異なる人たちが大勢いる。  
 同じ経営学部グローバル学科に在籍する二年生の佐々木あやさんは、広島生まれ。地元の高校を卒業してBBTUに入学し、二年目は上京して学んでいる。中・高時代は演劇にのめり込んだ。演劇を続けながら学べる大学はないか、いろいろな大学を見学した結果、この大学にたどり着いた。  
 「正直最初の一カ月は孤独感がありました。高校時代の友達も高でキャンパスライフを楽しんでいる……。なにに私はひとりパンコンとにらめっこ……。でもそのうちに、[AirCampus@]で知り合った仲間から気遣いのメールももらった。アドバイスされたり……。自分がかかっていることで世界が広がる実感がかけてきました。大学には、企業で勤めつつ学んでいるだけの若者同士だけでは出てこ



千代田区秋葉原の本校には経営学関連の図書がぎっしり並び自習室があり、訪れて学ぶ学生も

たこともありです。孤独なものではないかと思いついていたウェブでの学習は、むしろ距離を超えて出会った学生たちの意見交換、人脈形成の場だった。培われるのは時間マネジメント力、積極性、考える力、表現力……。これらは経営、企業活動、いやそもそも人間の成長において必須の要素ばかりだ。  
 伊藤副学長からは、親の海外赴任中に大学進学を期を迎え、帰国の必要がないならBBTUに入学し、現地で家族と暮らしながら経営学を学んでいる学生もいると聞いた。帰国生としてだけでなく、海外生のままで、リアルな経営学を学ぶという門戸がいま、開

海外子女教育復興財団では、帰国子女を受け入れている学校にも「学校会員」として維持会員に加わっていただいております。この欄で毎回一校ずつ紹介しています。

## 受け入れ校紹介 学校会員ファイル 108

# オンライン大学 (BBTU) ビジネス・ブレイクスルー大学

大前研一の経営哲学で問題解決型の学生たれ  
 「BBTUは、これまで大前研一学長が経営コンサルタントとして、日本企業を創設した戦後第一世代の経営者と間近に接してきた知見を基盤に開学しました」と、副学長を務める経営学部の伊藤泰史教授。  
 「BBTUは、これまで大前研一学長が経営コンサルタントとして、日本企業を創設した戦後第一世代の経営者と間近に接してきた知見を基盤に開学しました」と、副学長を務める経営学部の伊藤泰史教授。

「学長が長年培った人脈で集う経験豊富な教授・講師陣の講義を核に、サイバー環境を整備して教授や学生同士でディスカッションできる通称「AirCampus@」というネット上の意見交換の場も整えています。日本各地はもとより、海外に在住しながら学んで学士資格の取得を目指す学生たちも100パーセントオンラインで学べるのです」  
 講義はいつでも受講することができるオンデマンド方式で配信されているので、学ぶ国、場所、時間を問わない。またPCだけでなくスマートフォンでも視聴できるので、外出しているときでもちょっとした空き時間を利用して学ぶことができる。こうしたことは、講義を発信するインフラであるコンピュータソフトが最先端のITテクノロジーによって設計されているからこそ。システム部門に

参加型の講義から展開するもの  
 どういう講義が用意されているか、動画の一部が「3分間大学」としてウェブ上で公開されている。  
 たとえば、キャメル山本教授による「日本人にいまいちばん欠けているもの」「リーダーシップ」という動画をチェックしてみる。外務省に十年余り在籍したあと経営コンサルタントを務める氏は、講義で何を学ん



学ぶ内容の一端を、ウェブの動画で公開する「3分間大学」(写真はキャメル山本教授の「リーダーシップ」)

実現している。  
 教授・講師陣には現役の経営者も多く、多忙だ。講義はそのスケジュールを縫ってスタジオで収録され、受講する学生たちに配信される。教授たちは準備を周到にし、IT知識、論理性、コミュニケーション力、英語力を高めるべく、次代を担う学生へ講義を行う。

「いまの学びの場に飽き足りない学生、また社会人がこの大学を選んでくれます。ネットで講義を見

でいくかを明確に伝える。「教授が教えたことを学生がきちんとキャッチしたかを試験で問う単位を取得するという従来の形とは異なり、BBTUでは、テーマ、課題をもとにネット上の仲間と意見を交換し、考えを深め、議論をアピールする訓練をしています」と伊藤副学長。  
 実学の経験を持つ教授に実力本位で評価される、学びがいのあるシステム。それは自分がさらされる厳しい学びの場でもある。